

退職金ゼロの時代／小泉訪朝の危険な賭け／ゆとり教育の罪

大正11年3月31日第三種郵便物認可 2002年9月22日(毎日曜日)発行 第81巻第39号 通巻4522号

サンデー毎日

大異変!

退職金ゼロの時代

サラリーマンの人生設計

Takaku Mai
高久 舞さん



2002.9.22
定価300円

ガソリン業界トップ
ENEOSの“ずさん販売”をスッパ抜く!!

●レギュラーを「ハイオク」と卖った5ヵ月!

「ゆとり」の実態は
下位層の切り捨てだ

●迷走する教育改革の“原点と行き先”

原子力をなめるな!

●基準が厳しいから隠蔽!? 東電のあきれた言い訳

小泉訪朝の危険な賭け

首脳会談に米国「超冷淡」

首相を待ち受ける「三つの地雷」／訪朝でうごめく北朝鮮利権の正体

テロから1年
危険に満ちた「イラク攻撃」

- 世界永久戦争が始まる
- 「米国追随」でブレアは絶え間ない
- FBIが追跡する「テロの黒幕」
- 暴行事件多発!! 米「マイノリティー差別」…

グラビア[愛と哀しみのNY]

北朝鮮訪朝でどうぞめぐ 「朝鮮利権の正体」

前向きの姿勢
をアピールし
たのだと思いま
す

「拉致」と「補償」にスポットライトが当たる小泉訪朝。だが、国交正常化に向けた首脳会談では、表だけではなく、裏の問題が力羊を握る。ロシア、中国、韓国も絡んだ「北朝鮮利権」への思惑がうごめき始めている。

リスクナアムーレに到達。
そこから首脳会談の場であるウラジオストクへと、再び向かった。

サハリンの天然ガスをめぐっては、北海道経由で新潟まで運ぶ構想もあるが、パイプライン敷設に伴う漁業権補償などのメドがつかず、構想倒れとなつたままだ。

金正日総書記が8月下旬、22両編成の特別列車で敢行した極東旅行には、大きな政治的シグナルが秘められていた。

金正日総書記が8月23日にロシアのウラジオストク郊外の迎賓館で行つたブーチン大統領との3年連続の首脳会談。

だが、特別列車はこんな軌跡を残していた。

20日午前、露朝国境を越えてハサン到着。そのままウラジオストクを通過し、北上を続けて21日朝、ユーラシア大陸を横断するシベリア鉄道の終着点であるコムソモ

「実は、北サハリンに眠る膨大な天然ガスはコムソモリスクナアムーレまでパイプラインが延びてるのであります。ロシア政府は、数年以内にハバロフスクまで延長する計画ですが、中国のほか、特に韓国が、その安価な天然ガスの輸入に積極的です。そこで、パイプラインを極東から朝鮮半島を縦貫させる構想の、最大のネ

事情も見越したかのようない金総書記の極東の旅。金総書記が、全日程に同行したロシアのブリコフスキイー極東連邦管区大統領全権代表を伴つて、平壤に戻つたのは24日。日本外務省の田中均・アジア大洋州局長が平壤で、今回的小泉訪朝の地ならしともなつた日朝局長級会談に臨んだのは、その翌日のことである。



8月23日の露朝首脳会談=ロイター

訪朝の危険な賭け



南北経済協力推進委員会で会意=口イタニ

ソウルでも、南北経済協力推進委員会が開始され最終日の30日には、38度線をはさんだ非武装地帯でレールが撤去されたままの、京義線そして東海線を連結する南北縦断鉄道の同時着工が合意された。

本では福田官房長官が歴史的な小泉訪朝を発表した。くしくもというか何というか、南北綻断鉄道連結工事の同時着工は、なんと日朝首脳会談の翌日、9月18日に予定されているのだ。

朝鮮総連関係者の間では、京義線の連結工事が完了する10月末か11月初め、金総書記が平壤から特別列車で韓国南端の釜山を訪れ、金大統領との再会の約束を果たすという情報までが、すでに流れている。

今年3月、韓国建設交通省は日韓海底トンネルの調査費用を計上し、来年初めにも調査結果を出す予定。日韓海底トンネルの総事業費は100兆円以上（約10兆円）になると見込まれるが、日韓関係筋によると、3月訪韓した小泉首相はこの構想にいたくご執心だつたという。瀕死状態にある日本のゼネコンにとつても、のどから手が出るような世纪の大事業である。

しかし、南北縦断鉄道も朝鮮半島縦貫パイプライン

円借款がパイプラインの原資に

きる。一説では、その額は年間3億ドル（約350億円）とも見積もられる。前述の朝鮮半島縦貫パイプラインを敷設する場合にも、北朝鮮には莫大な中継料が発生するのである。

も、北朝鮮が信頼できる安定期国家であることが前提だ。そのために必要なのが日本との間での国交正常化であり、その結果として支払われる無償・有償の円借款が、パイプライン建設の原資となる可能性もある。

それにしても、朝鮮半島をめぐる戦後補償は、65年締結の日韓条約で一応解決された格好となっているが： ∴。アジア経済研究所の中川雅彦氏は、北朝鮮への“補償”が避けられない事情をこう説明する。

では、小泉首相はなぜこの時期を訪朝のタイミングとにらんだのか。中川氏は12月に予定される韓国の大統領選が「大きなブーケタマ」と指摘する。

今回の大統領選では、北朝鮮に強硬策を辞さない野党ハンナラ党の李会昌総裁が優勢といわれる。ただでさえ好戦的な米国・ブッシュ政権に危機感を募らせている金総書記は、2年前の金大統領との合意事項を、政権交代後も実効性あるもの

ている。パイプラインを朝鮮半島に縦貫させれば、北朝鮮のエネルギー問題解決の糸口になる可能性もあるが、元栓の米国が本腰を入れない限り、消極的な事業にならざるを得ない。日朝関係が改善しても、日本のODA資金による積極的な外交は見込めないでしょう

電撃的な日朝首脳会談が吉と出るか、凶と出るか。両首脳のパフォーマンスは「北朝鮮利権」の攻防の様相をも帶びることになる。

それだけではない。韓国が熱い視線を注いでいるのが、日韓海底トンネルの建設といわれる。1980年

（日韓条約は日本英の3ヵ国語で作成され、解釈の違ひがある場合は英文によるものと書かれてあります。韓国語の条文では韓国を朝鮮半島で唯一の合法国家とうついているが、英文では38度線以南の国連監視下にあつた地域において唯一合法と書かれています。つまり、国連監視下になかつた北朝鮮の合法性には言及しておらず

のにしておきたい。いずれ
払わなくてはならない“補
償”ならば、北朝鮮が妥協
しやすい時期を狙うべきだ。
そこに小泉訪朝の意図が透
けて見えるようだ。

だが一方で、そんな北朝
鮮の動向のカギを握る朝鮮
半島縦貫パイプライン構想
については、懐疑的な見方
もある。寺谷弘士・青山学
院大教授が言う。

ている。パイプラインを朝鮮半島に縦貫させれば、北朝鮮のエネルギー問題解決の糸口になる可能性もあるが、元栓の米国が本腰を入れない限り、消極的な事業にならざるを得ない。日朝関係が改善しても、日本のODA資金による積極的な外交は見込めないでしょう

電撃的な日朝首脳会談が吉と出るか、凶と出るか。両首脳のパフォーマンスは「北朝鮮利権」の攻防の様相をも帶びることになる。

37 サンテー鉛 2002.9.22